



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第
6号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第50巻第6号). 泌尿器科紀要 2004, 50(6): 450-450

ISSUE DATE:

2004-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113378>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

前号に引き続き国立大学の法人化に関する話題である。各大学は文部科学省に中期目標を提出して、その達成度によって評価を受け、さらにその評価を基準にして補助金の増減が決定されると聞いている。京都大学は伝統的に学生の教育・指導に関しては放任主義であるが、これが外部評価にさらされると「不十分」「無責任」ということになる。しかし、このような中からノーベル賞受賞者が生まれてくるのは何故だろうか。

先日、ある京大名誉教授のおもしろい講演を聞いた。「アホ」と「カシコ」の相互依存という話である。話によると、ノーベル賞を取るような研究は長く日の当たらない仕事から生まれることが多く、研究者はまわりから「アホ」と思われていることが少なくないという。要するにノーベル賞受賞者は最初から「カシコ」ではなく「アホ」のなれの果てかもしれないというのである。また、彼の理論によると、管理教育で「アホ」を減らせば、全体の分散は減らせるが、それによって「カシコ」も減ってしまうという相互依存の関係にあるという。

京都は学生の街である。市街を歩けば、真夜中でも大騒ぎをしている「アホ」の集団に出会う。しかし、私はこのパワーが好きである。「アホ」と「カシコ」が共存し、また「アホ」のなれの果ての「究極のカシコ」が生まれる伝統は京都の街に残ってほしい。

(小川 修)